

阪市議会議会 吹田市の市民が臨時議会の開催阻止

「平和決議」を守り抜く 400人の市民が臨時議会の開催阻止

宮城県塩釜市議会の「侵略戦争反省決議」(本紙第47号7面参照)を撤回に追い込んで勢いづく右翼勢力は、今度は大阪府の吹田市議会決議にその矛先を向けたが、市民の果敢な闘いによってその策動は阻止された。

吹田市議会は昨年十二月二十六日に全会一致で「不戦平和を願う決議」を可決し、さらに今年三月二十四日には、社会・共産両党の共同提案による「戦後五十周年を迎えるにあたり、憲法の平和原則を守り、核兵器廃絶と世界平和確立を誓う決議」を社会、共産、公明の賛成多数で可決した。反対したのは自民党と新生、民社は退場した。特に三月の決議は、「一九三一年の中国東北部侵略から太平洋戦争に至る十五年戦争は、軍国主義が引き起こした侵略戦争であることは歴史の真実に照らして明白である」と明記し、最後に①国内外の戦争犠牲者

への誠意ある戦後補償措置の自衛隊海外派遣の拡大など軍事大国化への反対②憲法の平和原則厳守と核廃絶を求める内容となっている。この決議採択が報道された直後から右翼団体が動き出し、四月十四日には井川登市議長(新生)に對して「不戦決議はすでに憲法にうたわれており、このような重大な問題を一市議会が決議すべきではなく、大戦の被害もあいまいで、国論が分かれている問題だ。両論が分かれていて、この決議を撤回せよ」と申し入れた。また、全国の右翼団体が吹田市に街宣車を集中すると

吹田市に街宣車を集中するとの情報も伝えられた。こうして右翼団体の圧力を背景に、市議会内で三月の「平和決議」の見直しを求めるとともに、先の決議を事実的の渦中で戦死者を賛美する動きが始まった。四月二十八日には臨時市議会開催を要する「吹田市議会臨時招集請求書」が自民五名、公明七名、新生三名、民社一名、社名、無所属一名の署名での動きに危機感を持った吹田

市民は「3・24平和決議を守ろう、吹田市民連絡会」を結成、井川議長への臨時市議会開催中止及び意見書取り下げの申し入れ、市内各地域へのチラシ配布、議員への激励などをを行い、また全国への支援を訴えた。これにこたえて、全時議会開会時間切れの夕方五時に、市役所前で抗議集会をもち、拍手と歓声で沸き返った。右翼団体の圧力に屈伏しようとした市議会を市民の力で押し返し、「平和決議」を守りぬいたのだ。

この意義は大きい。国会で議の山下慶喜議員も座り込みに参加。翌朝には「右翼の圧力から自由と民主主義・平和主義を守る吹田市民の会」(共産系)のメンバーも駆け付けた。臨時市議会は旧議員によって審議が行われる。市役所前に機動隊の車三台が待機する。集まった市民たちは、各党派議員への臨時議会開催中止の要請行動を行い、開催されることが重要と思う。

(吹田市・通信員)